

再検証要請対象医療機関における2025プランについて（湘南西部は3ページに記載）

上段 医療機関名 下段 開設者名	【H29年度病床機能報告】① 上段：許可病床数 下段：稼働病床数						【H30年度病床機能病床機能】 上段：許可病床数 下段：稼働病床数						2025年【病床機能】② ※下段はH29病床機能報告との差 (②-①) ※2025プランより抜粋						機能変更あり	うち過剰な病床機能へ の転換	うち増床	2025年に向けた対応方針（抜粋）																							
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護医療院等	計	今後地域で担う役割等	病床機能の変更予定 (増床・減床を含む)	診療科や、その他の機能の変更、見直し等の予定																							
済生会 神奈川県病院 (A) (横浜)	123	76				199	161	31				192	4	159	36				199	● ●	・神奈川区の中核病院となるべく、救急医療、がん、災害医療等の政策的医療を推進する拠点病院としての役割をさらに強化していく。 ・地域完結型医療を提供するため、在宅療養支援病院として在宅急変対応も含めた救急体制を充実させ、行政や地域の医療機関、診療所、介護施設などと強力な連携を組み、地域包括ケアシステムの中核を担う。また、地域全体の教育や育成等を通じて、地域全体の医療水準の向上図る推進役となる。 ・予防医療をさらに充実させ、地域住民の健康管理と病気の早期発見に寄与する。 ・医療計画における5疾病の一つである糖尿病に対する取り組みとして、生活習慣病に特化した外来を設置する。 ・今後も医療需要が増え続ける循環器系疾患に対応するための体制を強化する。 ・認知症を含む神経疾患に対応するための体制をさらに拡充する。 ・在宅医療との密接な協力関係を構築する。	・地域の医療機関と機能や役割を分担し、急性期から回復期、在宅までを見据えた一的な医療の提供を行う。 ・神奈川区の救急医療（在宅急変対応、高齢者救急含む）を担うため、救急用の病床を持つ。 ・神奈川区に高度急性期機能を持つ病院がないことから、高度急性期機能の病床（HCU機能）を持つ。 ・がん診療をさらに充実させるため、緩和ケア病棟の拡充を行う。																							
恩賜財団済生会	123	76				199	161	31				192	+4	+36	△40	-	-	-	-	予定																									
済生会 若草病院 (A) (横浜)	127	38	34			199	43	134				177	43	134					177	●	(1) 急性期治療を終えた患者の早期受入れを図るために、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟の増床を行う。また、在宅医療の患者増加が予想されるため、在宅へ繋ぐ医療の提供と在宅復帰後の医療を視野に入れ、ソフト・ハード面を整備していく。 (2) 在宅療養支援病院として金沢区在宅ネットへの参画を更に強化し、在宅医療を受ける患者の急変時及び退院後の医療を手厚く提供する。 (3) 訪問診療において、対応診療科を増やし、合併症や幅広い疾患に対応する在宅医療を提供する。 (4) 訪問看護ステーションにおいて、機能強化型ヘシフトアップすることによって、重症度の高い患者への対応強化を図る。 (5) 訪問リハビリテーションの機能強化を図り、利用者の心身機能の維持回復および日常生活の自立を促進する。	・地域に不足する回復期機能を提供するため、2階東病棟の回復期リハビリテーション病棟の38床を8床増床し46床へ。（当該病棟フロアにある機能訓練室を病室2室×5床に変更し、病室1室×2床を食堂兼談話室の拡張のため閉鎖・吸収する改修工事を行う） ・地域に不足する回復期機能を提供するため、3階西病棟を障害者施設等入院基本料3慢性期43床から地域包括ケア病棟入院料1回復期に変更するとともに1床増床し44床へ。 ・回復期機能の充実を図るため、3階東病棟の療養病棟34床を閉棟し、理学療法室1室・作業療法室2室・言語聴覚療法室5室等へ変更する。 ・急性期治療を終えた患者の早期受入れを図るため、4階東病棟の40床を3床増床し43床へ。 ・機能訓練室の増築に伴い、病床数を22床減少する（合計199床→177床へ）																							
恩賜財団済生会	127	38	34			199	43	134				177	-	△84	+96	△34	-	-	△22	済																									
川崎市立井田病院 (B) (川崎南部)	298	45				343	8	290	45			343	8	290		45			343			・急性期医療や救急医療に加え、井田病院が担ってきた結核医療、緩和ケア、在宅医療等も継続的かつ安定的に提供できるよう取組を推進します。 ・「住み慣れた地域での医療、介護等の提供」が効率的、効果的に行われるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を推進します。 ・救急やがん医療など、今後増加が見込まれる医療機能の充実・強化に向けた体制整備を進めます。																							
川崎市	298	45				343	8	290	45			343	+8	△8		-	-	-	-			・地域の中核病院として、診療所等では提供が困難な高度治療や検査、手術などを必要なときに迅速かつ効果的に提供するため、医療機関相互の機能分担と連携を進める「地域医療連携」の取組を、より一層推進します。																							

上段 医療機関名 下段 開設者名	【H29年度病床機能報告】① 上段：許可病床数 下段：稼働病床数						【H30年度病床機能】 上段：許可病床数 下段：稼働病床数						2025年【病床機能】② ※下段はH29病床機能報告との差 (②-①) ※2025プランより抜粋						機能変更あり	うち過剰な病床機能へ の転換	うち増床	2025年に向けた対応方針（抜粋）					
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護医療院等	計	今後地域で担う役割等	病床機能の変更予定 (増床・減床を含む)	診療科や、その他の機能の変更、見直し等の予定					
相模原赤十字病院 (B) (相模原)	132					132	132				132		92	40					132	●		・地域の災害医療拠点病院及びDMAT指定病院として機能強化を図る。 ・地域の在宅医療支援医療機関と協力し、患者に安心を提供できる診療ネットワークを構築することを目標としている。 ・地域全体の医療・看護・介護の質の底上げがさらに必要だと考えており、地域にある在宅や介護施設（病院を除く）は当然として、回復期、慢性期病院においても地域住民の健康の保持・増進と健康障害時、入院前後の対応と、安らかな死へのケアの充実を図ることが必要だと考える。今後、回復期、慢性期病院への訪問やカンファレンスを通した現状把握と、問題点の抽出、解決策の立案と実施、評価を繰り返しながら、病院以外の介護施設も定例の会議等を開催し情報共有や問題解決を図っていきたいと考える。 ・当院は相模原構想区域の緑区内、特に旧津久井郡内において、介護施設、福祉施設からの入院患者を多く受け入れており、取扱う疾患も内科では誤嚥性肺炎、整形外科では転倒による骨折等の高齢者特有の疾病が多い状況にある、今後も住民の高齢化やサービス付き高齢者住宅棟の増加が多く見込まれております、高齢者の急性期疾患に対応する機能を持った当院が、他の回復期、慢性期の医療機関と役割を連携しながら、急性期医療を担っていき、さらに当院の訪問看護を基軸として在宅医療の強化を図り、地域完結型の医療を目指す。	・2019（令和元）年7月、急性期病床の一部を回復期（地域包括ケア）病床へ転換済・地域住民への医療の提供と受け皿となること、急性期治療を終了した患者が在宅復帰に向けた支援を行える病棟を併せ持つこと、訪問診療・訪問看護部門を強化し、在宅医療の推進を図ることが、今後の病院の役割と考える。				
日本赤十字社	132					132	132				132	-	△40	+40	-	-	-	-	済								
東芝林間病院 (A) (B) (相模原)	159	40				199	159	40			199		129	70					199	●		・政策医療（5疾病、救急）対応を継承、地域の急性期医療を担う。（acute） ・地域の回復期ニーズは旺盛であり積極的に受入れて機能拡充を図る。（post acute） ・後方支援を強化・ネットワーク化し在宅・施設入居時の急変に対応する。（sub acute）	現在の回復期リハ40床に加え、地域包括ケア30床を急性期病床から転用、病床管理強化（院内転床）と地域ケアニーズ（subAcute）を賄う。				
東芝健康保険組合	159	40				199	159	40			199	-	△30	+30	-	-	-	-	予定								
横須賀市立市民病院 (B) (横須賀・三浦)	84	256	45			91	476	84	256	45	91	476	69	247	68				384	●		市民病院は、高度急性期から回復期までを担っており、在宅療養後方支援病院として在宅患者の受け入れにも対応している。また、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を有し、地域包括ケアシステムの一翼を担っている。 今後も引き続きこれらの機能を担う。また、三浦半島西側で、くも膜下出血の搬送時間が他の地域よりも時間を要する60分圏内エリアとなっていることから、医師の確保等により脳卒中患者の受け入れ体制拡充を図る。	・市民病院の現在の病床数と2025年の予定病床数 高度急性期 84床→ 69床 (△15床) 急性期 256床→ 247床 (△9床) 回復期 95床→ 68床 (△27床) 慢性期 0床→ 0床 休棟 41床→ 0床 (△41床) 合 計 476床→ 384床 (△92床) (他に感染症病床6床あり)				
横須賀市	66	212	34			312	66	212	34		91	403	△15	△9	+23	-	△91	△92	予定			・市立2病院を一体として考え、市立2病院合計の高度急性期、急性期病床数は、2025年以降も現在の病床数と同じとする。 ・回復期、慢性期病床は、地域の医療提供体制や医療需要を鑑み、市立2病院合計で減とする。 ・予定期間は新病院開院予定の2025（令和7）年度とする。					

上段 医療機関名 下段 開設者名	【H29年度病床機能報告】① 上段：許可病床数 下段：稼働病床数						【H30年度病床機能】 上段：許可病床数 下段：稼働病床数						2025年【病床機能】② ※下段はH29病床機能報告との差 (②-①) ※2025プランより抜粋						機能変更あり	うち過剰な病床機能へ の転換	うち増床	2025年に向けた対応方針（抜粋）					
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護医療院等	計	今後地域で担う役割等	病床機能の変更予定 (増床・減床を含む)	診療科や、その他の機能の変更、見直し等の予定					
三浦市立病院 (B) (横須賀・三浦)	89	47			136	89	47			136	89	47							136								
三浦市	89	47			136	89	47			136	-	-	-	-	-	-	-	-	-								
済生会 湘南平塚病院 (A) (B) (湘南西部)	130	46			176	46	130			176	46	130							176	●							
恩賜財団済生会	130	46			176	46	130			176	-	△84	+84		-	-	-	-	-	済							
秦野赤十字 病院 (B) (湘南西部)	6	270			44	320	6	270			44	320	6	267	47				320	●	●						
日本赤十字社	6	259			35	300		256			44	300	ニ	△3	+47	-	△44	-	-	済							
国立病院機構 神奈川病院 (B) (湘南西部)	150	40	120	10	320	150	40	120	10	320	130	50	120			300											
独立行政法人 国立病院機構	140	40	120	10	310	140	40	120	10	310	-	△20	+10	-	△10	△20	予定										